

# 報道発表



## 特別展「京の国宝—守り伝える日本のかから—」の開催 ～京都ゆかりの珠玉の名宝が一堂に！～

令和2年1月22日

文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都市及び読売新聞社は、京都市京セラ美術館において、「日本博」の主要事業の一つとして、京都ゆかりの国宝と京都に関係の深い皇室の名宝等を一堂に展示する特別展を開催しますので、お知らせいたします。

本展は、古代より育まれてきた日本人の自然への畏敬の念や美意識等を、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料、歴史資料等、幅広い分野の京都ゆかりの国宝と、千年の都であった京都に関係の深い皇室の名宝等約40件により通覧するものです。

また、文化財の保存活用に不可欠な修理材料の確保や技術の継承と、模写・模造製作を通じた技術の復元といった文化庁の取組についても御紹介いたします。

本展は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として展開する「日本博」、また「紡ぐプロジェクト」の一環として、本年3月の京都市京セラ美術館のリニューアルオープンを記念する展覧会「京都の美術250年の夢」に合わせて開催するものです。

### 【展覧会概要（予定）】

- 会場：京都市京セラ美術館 本館北回廊2階（京都市左京区岡崎円勝寺町124）
- 会期：令和2年4月28日（火）～6月21日（日）
- 主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都市、読売新聞社
- 特別協力：宮内庁（宮内庁三の丸尚蔵館）
- 出品文化財：国宝37件、重要文化財1件、宮内庁所蔵文化財5件、ほか模写模造2件、文化財修復用具・関連映像等
- お問合せ：特別展「京の国宝—守り伝える日本のかから—」広報事務局（ユース・プランニングセンター内） 電話：03-3409-4266 FAX：03-3499-0958 E-mail：[miyako2020@ypcpr.com](mailto:miyako2020@ypcpr.com)
- 公式ホームページ：<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/miyako2020>

### <担当>文化庁文化財第一課

課長 田村 真一（内線2884）

主任文化財調査官 藤田 励夫（内線2888）

総括係長 是永 寛志（内線2886）

電話：03-5253-4111（代表）

03-6734-2886（直通）

独立行政法人日本芸術文化振興会

日本博事務局文化事業第1チーム 長澤 由美子

電話：03-3265-6075（直通）

日本の宝、世界へ、未来へ。



Kyoto National Treasure  
To Protect and Convey Japanese Treasure



「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』—皇室の至宝・国宝プロジェクト」は、

皇室ゆかりの美術工芸品や国宝・重要文化財など、日本の美を未来へ伝え、世界へ発信していくために、

文化庁、宮内庁、読売新聞社が官民連携で取り組む事業で、2018年11月に発表しました。

特別展覧会の開催、日本美術・文化の魅力を内外に発信するポータルサイトの運営、

文化財修理といった事業に特別協賛・協賛企業の協力を得ながら取り組みます。

文化財の「保存・修理・公開」のサイクルを永続させる仕組みを作っていきます。

——紡ぐプロジェクトHP



日本の美は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、  
大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、  
それらを畏敬する心を表現してきました。

日本では、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、  
漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、  
衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、

人間が自然に対し共鳴、共感する心を具現化し、その美意識を大切にしています。  
日本博は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、  
総合テーマ「日本人と自然」というコンセプトの下、

縄文時代から現代まで続く日本の美を国内外へ発信し、次世代に伝えることで、  
更なる未来の創生を目指し、2019年からスタートしました。

文化庁、日本芸術文化振興会、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間企業・団体等の総力を結集し、  
日本の美を体現する美術展・舞台芸術公演、文化芸術祭等のプロジェクトを

四季折々、年間を通じ、日本全国で展開していきます。

日本博HP



#### 開催要項

日本博／紡ぐプロジェクト  
特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」

令和2年(2020年)4月28日(火)～6月21日(日)

京都市京セラ美術館 本館北回廊2階(京都府京都市左京区岡崎円勝寺町124)

休館日：月曜日(ただし5月4日は開館)

開館時間：午前10時～午後6時(入館は閉館の30分前まで)

主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都市、読売新聞社  
特別協力：宮内庁(宮内庁三の丸尚蔵館)

観覧料：一般1500円ほか



#### プレス問い合わせ先

特別展「京の国宝—守り伝える日本のたから—」広報事務局(ユース・プランニングセンター内)

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 ヒューリック渋谷一丁目ビル3F

TEL:03-3409-4266 FAX:03-3499-0958 E-mail:miyako2020@ypcpr.com 担当:鈴木・和泉・池袋



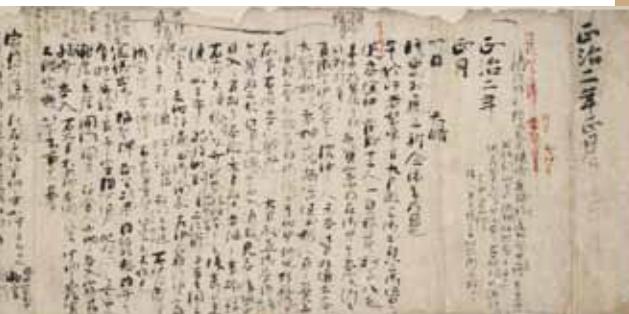
## 歴史資料、古文書

国宝 伊能忠敬関係資料のうち 琵琶湖図  
江戸時代 香取市伊能忠敬記念館蔵

京都を知るためのアプローチとして資料的な文化財から踏み入っていきます。京都を中心とした伊能國の世界から始まり、黎明期の京都に関わる考古資料をご覧いただきます。文字資料としての古文書では、公家文化を代表する藤原定家の『明月記』など文字から見る京都を堪能できます。



## 彫刻



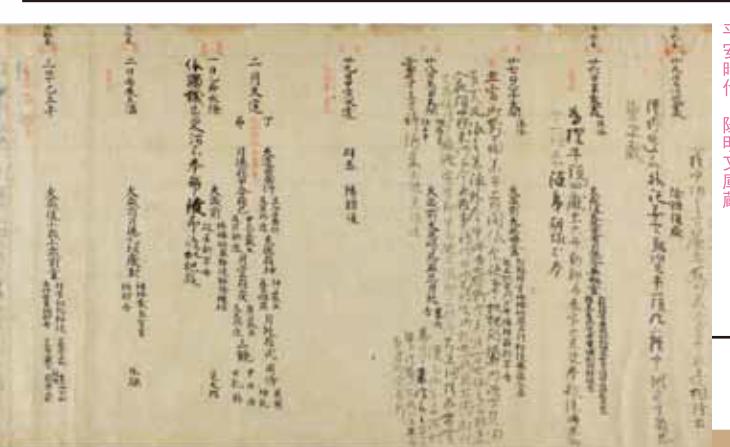
国宝 木造二十八部衆立像のうち 婆羅仙人  
鎌倉時代 妙法院蔵



国宝 三十帖冊子のうち 第十五帖  
平安時代 仁和寺蔵

## 書跡・典籍

古文書  
国宝 御室関白記  
平安時代 阳明文庫蔵  
自筆本のうち 寛弘元年上



文字で表された文化財は、京都の多様性を分かりやすく伝えてくれます。京都を彩った公家文化は、公家の日記に詳細に記録されています。また京都で花開いた仏教文化は、平安遷都と共に創建された官寺・東寺の歴史を綴つた『東宝記』などに代表されます。空海が中国から持ち帰った『三十帖冊子』など、世界に開かれた文化も京都の顔の一つです。

# 四

## 工芸品

工芸品は、漆や金属、陶磁、染織など多種の材質を、單獨で、あるいは組み合わせて製作されたものです。その製品は、人々の生活や信仰の中で用いられ、引き継がれてきました。本章で御紹介する京都における当代最高峰の技術や表現を用いた特色ある工芸品、そして多種多様な工芸技術が集結した古神宝類から、今に伝える公家文化ならびに武家文化の精華をご覧いただきたいです。



国宝 太刀 銘久国  
鎌倉時代 文化庁蔵

# 五

## 絵画



国宝 紙本著色法然上人絵伝のうち 卷第九  
鎌倉時代 知恩院蔵



春日權現験記絵のうち 卷第十  
鎌倉時代 宮内庁三の丸尚蔵館蔵

# 六

## 模写と修理

文化財を護ることは、それぞれの文化財をよく知ることです。それはまた、文化財を多くの人に親しんでもらう基本もあります。模写・模造からは、文化財が作られた技法、材料をよく知ることができます。また、文化財を後世へ伝える修理の技術と材料を知ることは、護ることだけでなく、文化財に親しんでもらう興味深い糸口でもあります。



重要文化財  
絹本著色五百羅漢図  
南北朝時代 東福寺蔵  
修理作業風景